

更別村地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

市街地から離れた場所に位置する農村地域において、公共交通を利用できる環境にある住民は少なくなっています。

上記の農村地域は、従来、村民バスの公共交通だけであったが、地区内を運行する予約運行型(デマンド)乗合交通等の導入など、路線バス(十勝バス)との乗り継ぎが円滑で、効率的かつ利便性の高い公共交通の提供していく必要があります。

生活交通確保維持改善計画の目標

- ・令和3年度 予約運行型タクシーの平均日利用者数 5.3名
※令和元年度、令和2年度に実施した実証実験(無料)時の数値を参考に決定
- ・令和4年度 予約運行型タクシーの平均日利用者数 6.5名
- ・令和5年度 予約運行型タクシーの平均日利用者数 7.7名
- ・令和6年度 予約運行型タクシーの平均日利用者数 9.0名

令和5年度事業概要

運行系統名:更別村内便
運行区間:農村地区～市街地
運行回数:261回
運賃:192,900円

地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)(広尾線:帯広～広尾間)
- ・村民バス(市街地循環バス平日1日9便)
- ・移送サービス事業(介護予防事業等の送迎)
- ・福祉有償運送事業(要支援、要介護、障がい者等の送迎)
- ・民間介護タクシー事業(要介護者等の送迎)
- ・NPO法人サラリによる送迎ボランティア活動

協議会開催状況

- ・令和5年6月19日 第1回協議会を開催
 - ①乗合タクシーの有料運行(片道300円)。
 - ②実績豊富な大正交通有限会社とすること。
 - ③運行に必要な経費は、国(補助金)と運賃収入、不足分は更別村(委託料)の負担とすること。
- ・令和6年1月15日 第2回協議会を開催
 - ①地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(案)
 - ②更別村地域公共交通網形成計画の見直し
 - ③生活交通確保維持改善計画の変更

令和5年度事業の実施状況

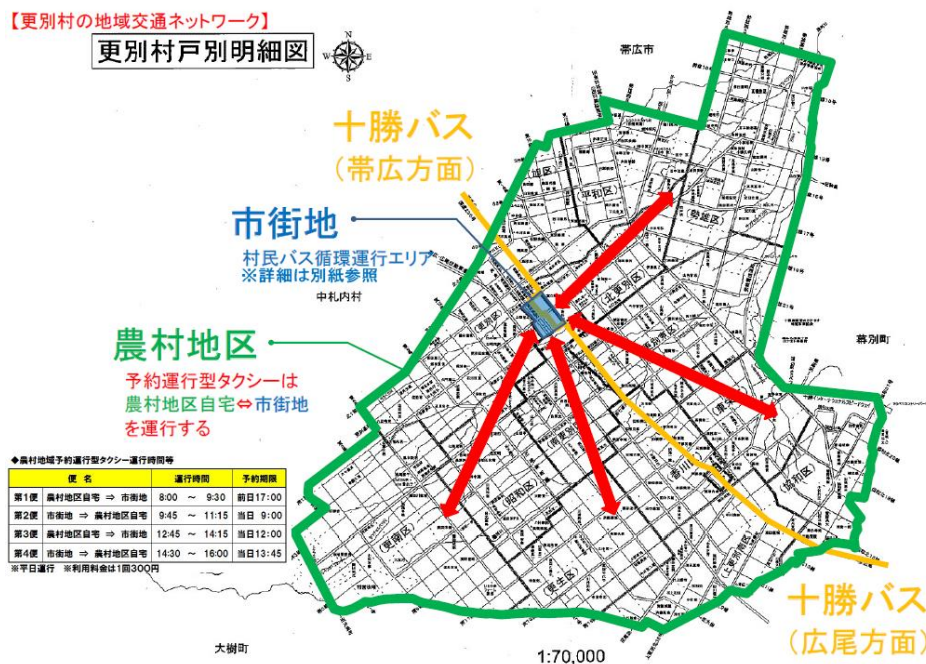
1) プロセス、創意工夫

- ・広報に乗合タクシーの特集記事とQ&Aを掲載し、利用促進に繋がるPRを行った。
- ・農村部の老人クラブへ説明会をタクシー会社と共に実施し、利用するための登録、運行時間や気になる疑問について、回答した。
- ・さらべつ版生涯活躍のまち構想である、高齢者や次世代を担う若者、子供たち、そして障がいをもつ方々の就労・交流を促す拠点となるカフェを福祉の里総合センターに臨時開設から常設とし、併せて高齢者グループ等の活動の場でもあり、連携した実施計画を実行した。
- ・アプリから、村民バス、予約運行型タクシーの現在位置及び各停留所の時刻表が閲覧することができる。

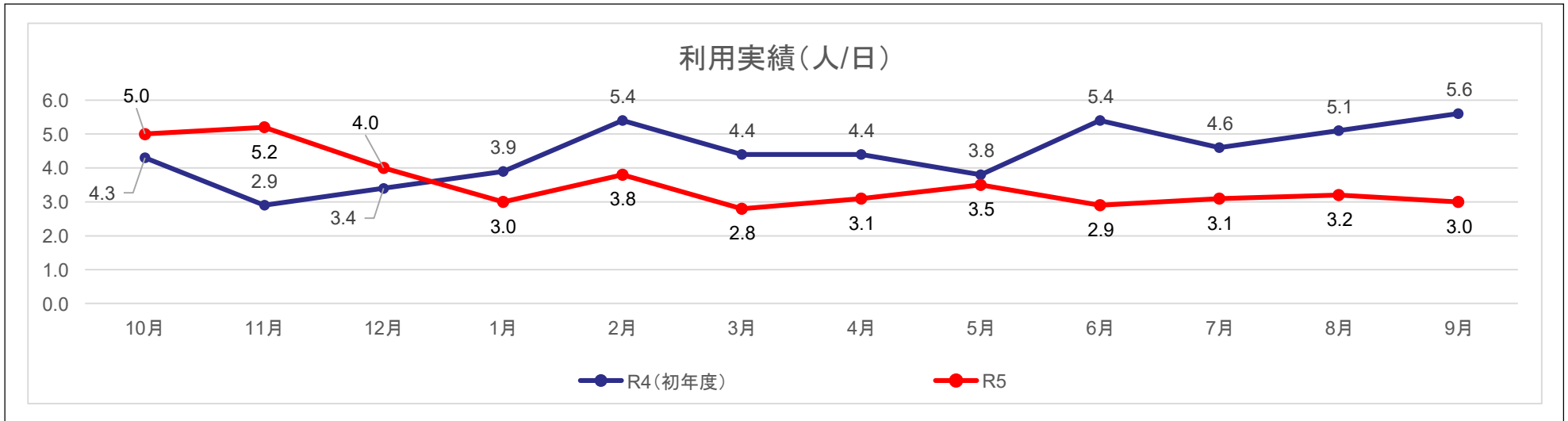
2) 運行系統

【更別村の地域交通ネットワーク】

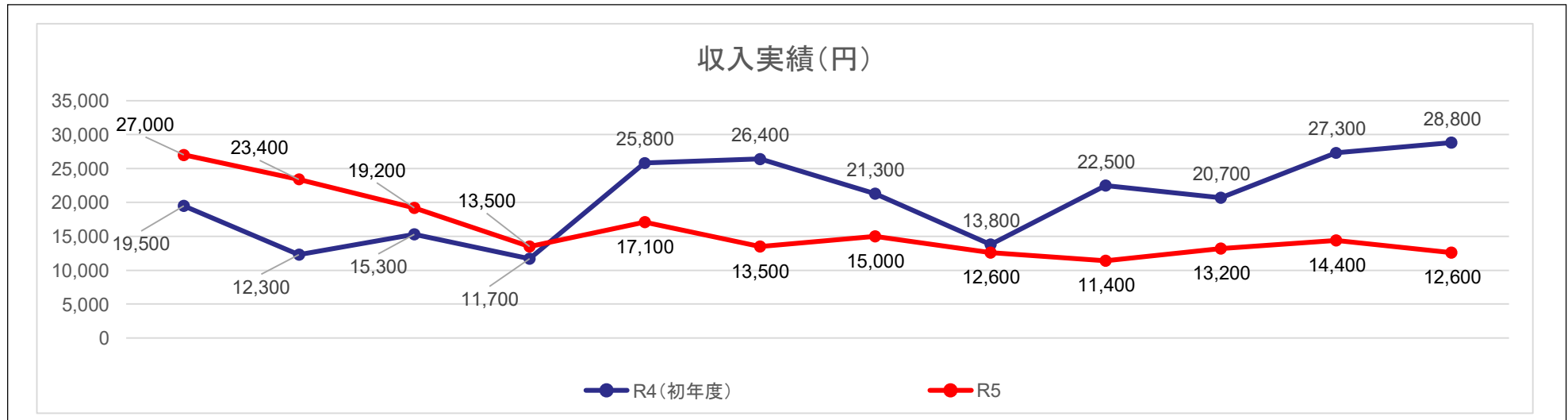
更別村戸別明細図



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

・デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用した、更別村スーパービレッジ構想に係る、無料スマホ貸出サービス(72台)の利用者には、更別村乗合タクシーのアプリをインストールした状態で配り、高齢者のスマホ教室(28回)なども合わせて利用促進を図った。

7) 事業の今後の改善点

- ・免許返納後の移動手段となる乗合タクシーについて、広報等により、村民へのPRに努める。
- ・デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用した、更別村スーパービレッジ構想に係る、無料スマホ貸出サービスの利用者には、更別村乗合タクシーのアプリをインストールした状態で配り、高齢者のスマホ教室なども合わせて利用促進を図る。
- ・これまで、農村部の利用者が自宅から更別市街地間の利用に限定していたが、全村民が村内どの場所でも、乗降が可能となるよう拡充を図る。(農村部の商業、公共施設への利用拡大)

6) 目標・効果達成状況

・達成状況

実績 運行日数179日(運行回数261回)、延べ利用者数643人
予約運行型タクシーの平均日利用者数は、
目標7.7人/日に対し、3.6人/日であったため、未達成である。

・効果

昨年と同様に自動車免許を持たない、高齢者層における交通弱者の移動手段が確保され、一定数の効果は達成できたものと考えている。しかし、要望者と利用者が概ね同じで、そのほとんどが高齢者である中、介護施設への入居やこれまで通っていた介護予防教室の送迎化により、利用回数の減少や免許保有者の返納数も少ないことから、延べ利用人数が目標値を下回る結果となった。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄